

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

進定年度	令和5年度	学校コード	F114310104794	設置等組織名	工学応用化学生物学科
大学名	神奈川工科大学	設置区分	私立	事業計画名	工学部応用化学生物学科新設
学校種	大学	都道府県	神奈川県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況		自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1				R5年度自己評価	リストから選択してください。	
				○年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ2 前掲し				○年度自己評価	リストから選択してください。	
認可申請又は届出	工学部応用化学生物学科の新設の届け出			○年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ1 前掲し						
				R5年度自己評価	【2】計画を十分に実施していない。 実験室・研究室施設設備整備について資材・機材がメーカーの製造遅延により遅れることが確定したため、計画変更申請を行い（承認日：令和6年3月29日）一部の整備（下記①～③）をフェーズ2後倒しとして実施することとした。 ① C 6号館実験室-研究室空調用 熱源設備の製造遅延による工事の後倒し。 <完了予定：令和6年4月> ② C 6号館実験室用排水装置付シンクの製造遅延による工事の後倒し<完了予定：令和6年6月> ③ E 2号館研究室及びD 3号館・E 4号館実験室用ドラフトチャンバー・実験台等の製造遅延による工事の後倒し<完了予定：令和6年6月>	
フェーズ2	令和5年度は、令和6年度より運用スタートする新設学科「工学部応用化学生物学科」に対して、新カリキュラム計画、施設の整備、教育・実験体制の準備・調整の期間とする。 ①令和5年8月以降：実験実習室の改修 1年生「化学・生物ユニットプログラムⅠ」(前期)、「ⅡⅡ」(後期)、2年生「合成化学実験ユニットプログラム」(前期)及び「物理化学実験ユニットプログラム」(後期)、「応用バイオプロジェクトⅠ」(前期)、「ⅡⅡ」(後期)、「生命科学実験Ⅰ」(前期)、「ⅡⅡ」(後期)の実験・実習のための各実験室の改修と整備を実施する。(C6号館401、411室、508室、509室、E 4号館103室、203室、D3号館303室、研究室、等) ②令和5年8月以降：実験実習室を含む設備において、授業教材準備と具体的な授業運用法の策定と準備 応用化学生物学科の課題解決型のゼミ、ユニットプログラム(UP)、プロジェクト授業に関わる具体的な授業運用法の策定と準備、調整 ③勤機付け教育(グリーン・トランスフォーメーション(GX)分野、環境保全、脱炭素・カーボニュートラル分野)、ゼミ、講義、課題解決型PBL教育における授業運用の準備 専門学科の3コース(応用化学コース、応用バイオコース、生命科学コース)におけるグリーン(GX)教育(カーボニュートラル、脱炭素、等)の導入の検討とそれに関わる準備、等 ④学部学科横断型実証教育「理系女性教育プログラム」の運用法の検討と準備、学部学科横断型環境教育プログラム(Stop the CO2 プロジェクト)との連携強化策の検討と準備 ⑤学校推薦入試(2024年度入試)における理系女子特入試の実施	①各実験実習室の施設設備の整備を実施した。(C6-401実験室：防汚性能及び耐薬品性能を有する床に更新、実験クチャー・用映像システム設置、学生実験用ロッカー-設置、C 6-411実験室：防汚性能及び耐薬品性能を有する床に更新、実験クチャー・用高解像度プロジェクター設置及び実験台固定型実験撮影画像活用モニター一体型PC設置、学生実験用ロッカー-設置、C 6-508・509実験室：実験クチャー・用高解像度プロジェクター設置、学生実験用ロッカー-設置、E 4号館-103・203実験室：実験クチャー・用高解像度プロジェクター設置、実験室照明を高輝度LEDライトに更新工事実施、学生実験用ロッカー-設置、実験準備室ドアをセキリテックに改修、実験機材保管用可動棚設置工事およびセキリテック付保管品保護設備設置工事を実施、D3号館-303実験室：実験クチャー・用映像システム設置、実験室照明を高輝度LEDライトに更新工事実施、C 6号館616実験研究室：実験研究区分により室内ペーステーション設置工事及び実験研究用シンクの設置工事を実施、E 2号館307・309実験研究室：学生実験研究スペースと学習スペースの区分け対応工事の実施、) ②1年生の実験実習系新設科目(必修科目)について、化学・生物・生命の勤機付け教育(化学・生物ゼミナールⅠ(前期)、ⅡⅡ(後期))、さらに基礎理論の理解とその基礎をベースとした実験・実習が融合したユニットプログラム(化学・生物ユニットプログラム(前期)、ⅡⅡ(後期))の授業内容を整備し、同時に関連する実験研究室（E 2号館1階：実験研究カンファレンス室A設置工事、E 2号館2階：実験研究カンファレンス室B・C設置改修工事）の整備を実施した。 ③工学部として必須なグリーン・トランスフォーメーション(GX)分野、脱炭素・カーボニュートラルに関する環境保全やその取組等について、2024年度より応用化学生物学科がスタートする1年次生を対象に意識や理解の定着を図るため、勤機付け教育を複数の科目に設定した。 初年次初級開教育(専門分野概論(4月集中授業))、上記②項のゼミナールⅡ、ユニットプログラムⅡにおいて、テーマとして導入し、勤機付け教育の準備を実施した。また、本事業の主旨と学部教育及び研究に反映すべき事項や注意事項等について、応用化学生物学科の担当教員にFD活動を実施し周知した。 ④教育プログラムとして、「理工系女子教育プログラム」(全6科目)を新設し、令和6年度より運用を開始する。本教育プログラムは、将来、リーダーシップを取りつつ新しい技術や産業を牽引できる女性を育成する目的を持っている。また、「Stop the CO2 プログラム」(全6科目)では、環境保全、脱炭素、カーボニュートラル、省エネ、グリーンエネルギー、工断素材、等をテーマとした教育プログラムを履修できるカリキュラム体制を整備した。 ⑤2024年度入試では、学校推薦型「理工系女子対象公募制」入試として公募したが受験者はいなかった。同時にに行った従来の学校推薦型入試に吸収されたものと考えられたため、2025年度入試では、総合型選抜「理工系女子特別選抜」入試として公募することと改め、改廃を図った。				
	開設又は定員増	工学部応用化学生物学科の開設（入学定員145名）	令和6年4月1日に開設			
フェーズ2 前掲し			① C 6号館実験室-研究室空調用熱源設備の設置工事実施 <完了：令和6年4月> ② C 6号館実験室用排水装置付シンクの設置工事実施<完了予定：令和6年6月> ③ E 2号館研究室及びD 3号館・E 4号館実験室用ドラフトチャンバー・実験台等の設置工事実施<完了予定：令和6年6月> 計画変更申請承認済 令和6年3月29日	R6年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ3	令和6年4月から新学科のスタートに伴い、次の教育の流れの基に授業運営を進める。 ①令和6年度(初年度)：1年生 特徴的な科目(グリーン・トランスフォーメーション(GX)教育) ・専門分野勤機付け教育(専門分野概論(科目)：初年次初級開教育(4月集中授業) ・グリーン(GX)教育(脱炭素、カーボニュートラル)及び環境保全の基礎導入学習の実施 工学基礎教育・体験型教育の実施（ゼミ、ユニットプログラム(UP)、等）・化学・生物ゼミナールを実施する。 ・理系女性教育プログラムや環境教育プログラム(Stop the CO2)も同時に学ぶ教育体制をとる。 ②令和7年度：1～2年生 特徴的な科目(グリーン教育(GX)) ・上記①項の1年次生の教育に加え、2年次生のグリーン(GX)教育・環境科学教育・課題解決型PBL教育の実施 環境分野科目、プロジェクト教育、ユニットプログラム(UP)教育、を実施する。 ③令和8年度：1～3年生 特徴的な科目(グリーン教育(GX)) ・上記②項の1、2年次生のカリキュラムに加えて、3年次生の専門分野教育の実施、課題解決型PBL教育の実施 専門発展分野教育(環境系、マテリアル系、物質合成系、新エネルギー系、バイオテクノロジー系、等)を実施する。 卒業研究プロジェクト、機器分析ユニットプログラムを実施する。 ④令和9年度(完成年度)：1～4年生 特徴的な科目(グリーン(GX)教育と研究教育) ・上記③項の1～3年次生のカリキュラムに加えて、4年次生を対象にグリーン(GX)研究(環境分析・保全・新エネルギー・バイオテクノロジー・生命科学・物づくり分野)を含む卒業研究実践型教育の実施 ・自分が所属するコースに限定せず、同一領域の専門分野からなる他コースの教員の研究室への配属希望があれば単位取得状況を考慮した上で配属され卒業研究を行うことを可能とする。 ⑤令和10年度以降：工学部全学科へのグリーン(GX)教育・環境教育への教育展開 ・令和9年度までの4年間(R6～R9)の新学科運用における点検、評価、改廃を実施する。 ・応用化学生物学科をモデルとして、工学部(機械工学科、電気電子情報工学科)へのグリーン(GX)教育・環境教育			R6年度自己評価	リストから選択してください。	
				○年度自己評価	リストから選択してください。	
				○年度自己評価	リストから選択してください。	
定員減又は学部等の廃止	R5年6月工学部応用化学科（入学定員60人）及び応用バイオ科学部応用バイオ科学科（入学定員125人）の学生募集停止の報告					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	神奈川工科大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の 取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。									
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック					
確認を受けている	☒ チェック									
確認の対象に該当しない	☐ チェック									
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td><td>92</td><td>95</td></tr><tr><td></td><td></td><td>759</td><td>764</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック	92	95			759	764	
計画通りに進んでいる	☒ チェック	92	95							
		759	764							
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td><td>18</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック	18						
計画通りに進んでいる	☒ チェック	18								
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック							
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック									
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。									
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック							
計画通りに進んでいる	☒ チェック									

フローアップ対象年度	令和5年度	大学名	神奈川工科大学
------------	-------	-----	---------

②

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

③

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

④

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- A：連携を通じた教育体制の整備と実施【連携開設科目等に限らない】

■ チェック

□ チェック

□ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は地域連携・貢献の重視を方針としており、2018年度には文部科学省研究ブランディング事業として地域と連携した「先進高齢者支援システムの開発と社会展開」が採択されている。この成果に基づき、本学は神奈川県、厚木市、厚木商工会議所と連携した地域連携協議会の発足を予定している。この協議会は単に研究による産業振興ばかりでなく大学を中心とした人材育成も大きな目標としている。応用化学生化学科では地域の化学、バイオ関連の企業と連携し実践バイオ開発論（仮称）の科目設置を新たに計画し、企業技術者を客員教員に招聘し実践的な手法を学ぶ内容を盛り込んでいく。	企業と連携したPBL教育の計画と実施体制の整備 1)初年次初級期教育(1年次、専門分野概論、必修科目) 企業(ソーシャルデザイン研究所(株))と連携し、4月初頭に社会人基礎力の理解・専門分野の動機づけについてPBL教育活動も応用化学生化学科1年次生全員に実施した。 基礎専門教育(1年次、応用化学概論、必修科目)では、現在、同社による2回のPBL教育を実施した。他大学教員との連携では東京海洋大学と連携中である 2)企業連携キャリア教育 キャリア教育において、企業特別講座科目、産学連携プロジェクト科目を設置し、現在、連携企業について検討を進めている。 3)企業における課題解決型教育(3年次、選択科目) 「企業における課題と解決を学ぶ」科目において、課題解決型学修の設置を行っている。 連携企業：戸田建設(株)顧問及び糸井化工(有)顧問、(株)日本成功学会、栄光(株)、アイデンシャ(株)、TMI総合法律事務所、等	

- B：多様な入学者の確保に向けた取組

□ チェック

■ チェック

■ チェック

□ チェック

■ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
応用化学生化学科の設置にあたり、高等学校訪問、オープンキャンパス、受験相談会や高等学校の教諭、塾・予備校向け説明会の開催などを通じて、様々な教育情報も高校生や保護者、高等学校等の教諭に対して広く周知を図ることとしている。そのうえで、近隣の高大連携協定校を中心とした高大連携講座（高校生を対象にした探究学習のための講座）を本学が設置し、高校生が大学の教育を体験できる場を用意している。また、入学者選抜の実施においては、入試方法の多様化、評価尺度の多様化に努めることとし、入学者選抜の受入方針を踏まえたうえで、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜により実施することとしている。各選抜では複数の入試方法を用意しており、学校推薦型選抜には女子学生の確保に向けた取組として「理工系女子対象公募制」を設置、一般選抜には留学生受入れ強化に向けた取組として「外国人留学生試験」を設置している。	b.女子学生の確保(志願者数増)に向けた取り組み ・2024年度入試学校推薦型選抜「理工系女子対象公募制」入試として公募したが受験者はいなかったため、2025年度入試では総合型選抜に移行し、女性の入試特の門戸の拡充を図ることとし、これに合わせて、理工系女子特別奨学生制度を新設し、経済的支援も導入することとした。 ・2024年度より、リーダシップを取りつつ技術産業を誘因する理工系女性の育成を目的に、理工系女性教育プログラム(全6科目)を設置し、教育を開始した。2024年度の本プログラムの履修者は136名となった。 c.地域の初等中等教育段階の学校との連携 ・理工系女性教育プログラムにおいて、2年次に「理工系教育支援プロジェクト」科目を設置し、初等中等教育の理系教育の支援を地域の教育機関と連携して進める計画である。 ・2024年度JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、地域の女子小・中・高校生及び市政の教育機関も巻き込んだ理系進路選択支援を開始している。 e.留学生の受入れ強化に向けた取組 ・国際センター組織体制のもとに、留学生の受け入れ準備と今後の学修支援・学生生活支援を進めている。また、グローバル推進連絡会においても、留学生の学修支援について検討を行っている。	

大学名	神奈川工科大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1148	1148																	
		入学者数	人	1098	891																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,148	1,148																	
		入学者数(B)	人	1,098	891																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.96	0.78																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	4592	4592																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	4503	4218																	
		編入学者数	人	1	1																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.98	0.92																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定	開設												
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	212,375	400,099	498,917	472,814	543,027	481,692													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	457,277
本事業による助成金の額(F)	千円	250,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	463,527

特記事項

編入学定員については若干名としている。
